



● 音読の くふうを 書きましょう。

音読のくふう

音読のくふう

空の上で、お日さまが わらいました。  
 おや、はるかぜが ねぼうして いるな。  
 竹やぶも 雪も ふきのとうも、みんな  
 こまって いるな。」  
 そこで、南を むいて 言いました。  
 「おうい、はるかぜ。おきなさい。」  
 お日さまに おこされて、  
 はるかぜは、大きな あくび。  
 それから、せのびして 言いました。  
 「や、お日さま。や、みんな。おまちとお。」  
 はるかぜは、むね いっぱいに いきを すい、  
 ふうっと いきを はきました。

音読のくふう

● 音読の くふうを 書きましょう。

音読のくふう

音読のくふう

はるかぜに ふかれて、  
 竹やぶが、ゆれる ゆれる、おどる。  
 雪が、とける とける、水に なる。  
 ふきのとうが、ふんばる、せが のびる。  
 ふかれて  
 ゆれて、  
 とけて、  
 ふんばって、  
 もっこり。  
 ふきのとうが、かおを  
 出しました。  
 「こんにちは。」  
 もう、  
 すっかり はるです。

音読のくふう

音読のくふう

ふきのとうを 読んだ かんそう